

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年8月10日

【四半期会計期間】 第106期第1四半期(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

【会社名】 東京産業株式会社

【英訳名】 TOKYO SANGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 里見利夫

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル8階)

【電話番号】 03(5203局)7690番(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 田沢健次
総務人事部副部長 田中直之

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル8階)

【電話番号】 03(5203局)7690番(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 田沢健次
総務人事部副部長 田中直之

【縦覧に供する場所】 東京産業株式会社 名古屋支店
(名古屋市中区新栄町二丁目13番地(栄第一生命ビル8階))
東京産業株式会社 関西支店
(神戸市中央区海岸通3番地(シップ神戸海岸ビル8階))
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第105期 第1四半期累計期間	第106期 第1四半期累計期間	第105期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(百万円)	14,154	27,836	80,981
経常利益	(百万円)	221	764	1,928
四半期(当期)純利益	(百万円)	94	501	1,113
持分法を適用した場合の 投資利益	(百万円)			
資本金	(百万円)	3,443	3,443	3,443
発行済株式総数	(株)	28,678,486	28,678,486	28,678,486
純資産額	(百万円)	18,439	20,329	19,802
総資産額	(百万円)	36,034	50,039	42,407
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	3.53	18.67	41.48
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			13.00
自己資本比率	(%)	51.2	40.6	46.7

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 持分法を適用した場合の投資利益については、利益基準及び利益剰余金基準から見て重要性がないため、記載を省略しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 第105期並びに第106期第1四半期累計期間の1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定において、株式付与ESOP信託が保有する当社株式(611,000株)を自己株式として処理していることから、期中平均株式数から当該株式数を控除しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期累計期間における我が国経済は、引き続き政府による経済対策や日本銀行による追加金融緩和政策により、設備投資の持直し、収益の改善等、緩やかな景気回復基調が続いております。

海外においては、中国の過剰な生産設備調整に伴う設備投資の減少、欧州のロシアへの経済制裁の影響やギリシャの債務問題等により不安定な状況で推移しました。

このようななか、当社の第1四半期累計期間の成約高は、前年同四半期に比べ27億97百万円増加の227億33百万円（前年同四半期比14.0%増）となりました。

当第1四半期累計期間の売上高につきましては、前年同四半期に比べ136億82百万円増加の278億36百万円（前年同四半期比96.7%増）となりました。

売上総利益は17億15百万円（前年同四半期比5億80百万円増、51.2%増）、営業利益6億21百万円（前年同四半期比5億17百万円増、496.8%増）、経常利益7億64百万円（前年同四半期比5億42百万円増、244.2%増）、四半期純利益5億1百万円（前年同四半期比4億6百万円増、429.5%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(電力関連部門)

売上高は149億93百万円と前年同四半期に比べ85億26百万円の増加となっております。また、成約高は90億45百万円（前年同四半期比7億17百万円増）、成約残高は385億65百万円（前年同四半期比64億7百万円増）となりました。

(化学機械関連部門)

売上高は36億43百万円と前年同四半期に比べ72百万円の減少となっております。また、成約高は51億78百万円（前年同四半期比8億76百万円減）、成約残高は179億9百万円（前年同四半期比26億6百万円増）となりました。

(電子精機関連部門)

売上高は67億93百万円と前年同四半期に比べ42億10百万円の増加となっております。また、成約高は72億49百万円（前年同四半期比30億67百万円増）、成約残高は34億40百万円（前年同四半期比12億28百万円減）となりました。

(環境関連部門)

売上高は23億72百万円と前年同四半期に比べ10億18百万円の増加となっております。また、成約高は12億25百万円（前年同四半期比1億11百万円減）、成約残高は60億51百万円（前年同四半期比15億89百万円増）となりました。

(その他)

売上高は33百万円と前年同四半期に比べ0百万円の増加となっております。また、成約高は33百万円（前年同四半期比0百万円増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(イ) 資産の部

当第1四半期会計期間末における総資産は、500億39百万円となり、前事業年度末と比較して76億32百万円の増加となりました。主な要因として、売上債権の増加等により流動資産が71億3百万円増加し、投資有価証券の増加等により固定資産が5億28百万円増加したことによるものであります。

(ロ) 負債の部

当第1四半期会計期間末における負債合計は297億10百万円となり、前事業年度末と比較して71億5百万円の増加となりました。この主な要因は、仕入債務の増加等により流動負債が69億82百万円増加したことによるものであります。

(ハ) 純資産の部

当第1四半期会計期間末における純資産合計は203億29百万円となり、前事業年度末と比較して5億26百万円の増加となりました。この結果自己資本比率は40.6%となりました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,678,486	28,678,486	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	28,678,486	28,678,486		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年6月30日		28,678		3,443		2,655

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,215,300		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,410,800	274,108	同上
単元未満株式	普通株式 52,386		同上
発行済株式総数	28,678,486		
総株主の議決権		274,108	

(注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式90株、および証券保管振替機構名義株式78株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する当社株式611,000株(議決権の数6,110個)及び証券保管振替機構名義株式400株(議決権の数4個)が含まれております。

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京産業株式会社	東京都千代田区 大手町2-2-1	1,215,300		1,215,300	4.24
計	-	1,215,300		1,215,300	4.24

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する当社株式611,000株は、上記自己株式には含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,322	6,160
受取手形及び売掛金	16,875	24,651
有価証券	3,499	3,499
商品	853	915
前渡金	2,716	2,797
その他	433	747
貸倒引当金	37	4
流動資産合計	31,664	38,768
固定資産		
有形固定資産	2,290	2,389
無形固定資産	234	218
投資その他の資産		
投資有価証券	6,079	6,440
その他	2,162	2,248
貸倒引当金	23	26
投資その他の資産合計	8,217	8,662
固定資産合計	10,742	11,271
資産合計	42,407	50,039
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,039	8,003
受託販売未払金	7,723	14,717
短期借入金	1,570	1,260
未払法人税等	242	172
前受金	3,878	3,259
引当金	332	157
その他	529	728
流動負債合計	21,315	28,298
固定負債		
長期借入金	10	7
引当金	68	65
その他	1,210	1,339
固定負債合計	1,289	1,411
負債合計	22,604	29,710

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,443	3,443
資本剰余金	2,764	2,764
利益剰余金	12,779	13,061
自己株式	647	647
株主資本合計	18,339	18,621
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,406	1,651
繰延ヘッジ損益	21	20
土地再評価差額金	35	35
評価・換算差額等合計	1,462	1,707
純資産合計	19,802	20,329
負債純資産合計	42,407	50,039

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	14,154	27,836
売上原価	13,019	26,121
売上総利益	1,134	1,715
割賦販売未実現利益戻入額	0	0
差引売上総利益	1,135	1,716
販売費及び一般管理費	1,030	1,094
営業利益	104	621
営業外収益		
受取利息	4	6
受取配当金	119	139
その他	17	17
営業外収益合計	141	163
営業外費用		
支払利息	5	4
為替差損	17	14
その他	0	1
営業外費用合計	23	21
経常利益	221	764
特別利益		
固定資産売却益	-	5
投資有価証券売却益	8	-
その他	-	0
特別利益合計	8	5
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	-	8
その他	-	1
特別損失合計	-	9
税引前四半期純利益	230	760
法人税、住民税及び事業税	3	169
法人税等調整額	132	89
法人税等合計	135	258
四半期純利益	94	501

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
減価償却費	73百万円	76百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	134	5.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	219	8.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(注)平成27年6月26日定時株主総会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式(611,000株)に対する配当金4百万円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(持分法損益等)

当社が有しているすべての関連会社は、利益基準及び利益剰余金基準からみて重要性の乏しい関連会社であるため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電力 関連部門	化学機械 関連部門	電子精機 関連部門	環境 関連部門	計		
売上高							
外部顧客への売上高	6,467	3,715	2,583	1,353	14,120	33	14,154
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	6,467	3,715	2,583	1,353	14,120	33	14,154
セグメント利益又は損失 ()	21	31	90	50	92	11	104

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸部門であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	92
「その他」の区分の利益	11
四半期損益計算書の営業利益	104

当第1四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電力 関連部門	化学機械 関連部門	電子精機 関連部門	環境 関連部門	計		
売上高							
外部顧客への売上高	14,993	3,643	6,793	2,372	27,802	33	27,836
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	14,993	3,643	6,793	2,372	27,802	33	27,836
セグメント利益又は損失 ()	168	25	424	9	608	12	621

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸部門であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	608
「その他」の区分の利益	12
四半期損益計算書の営業利益	621

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3円53銭	18円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	94	501
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	94	501
普通株式の期中平均株式数(株)	26,853,054	26,852,054

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている信託が保有する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
当該信託が保有する自己株式の期中平均株式数は、当第1四半期累計期間611,000株であります。
なお、前第1四半期累計期間においては、当該自己株式はございません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8月10日

東京産業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子 能 周

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芦 川 弘

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京産業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第106期事業年度の第1四半期会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、東京産業株式会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。